『總督賞』の喜びを語る[[1]](#footnote-1)

半の國進に資するためこのほど（一千圓）が設定され早くも第一回作品の銓が行はれつつある。にを設定されてゐる、、の各分野とに半はに最高たる得をめぐつて同設定の精神を顯現すべく日本なる作品の制作に命の力がげられることであらう。

くに入らんとしつゝある半にへられた設定のびを香山光郎、兪鎭両氏に聞く。

出でよ優秀作　香山光郎氏談　　　　　　　　寫眞　香山光郎氏

についても最作品について及びのが發表されましたことは眞に喜ばしい。等に志すほどの者は下における筆者の使命の々重きを知るとに閣下の意のあるところを汲み、半の發に力をすことをふ次第である。

今回の企てにより半島の文學青年は一段と勵まされ、國語化された文壇に裨益するところも大きい、優良作のどしどし現はれることこそ望ましいと思つてゐる。

1. 1943年1月28日付『京城日報』朝刊　 [↑](#footnote-ref-1)